

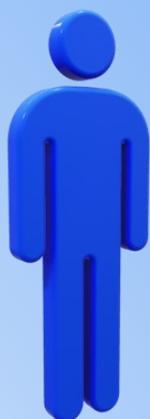
令和2(2020)年度

高等学校における「総合的な探究の時間」に関する調査研究



「総合的な探究の時間」の充実

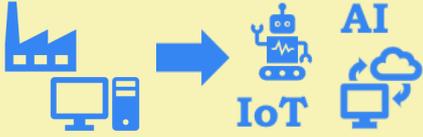
～新しい時代に求められる資質・能力の育成を目指して～





なぜ「探究」が注目されているのでしょうか？

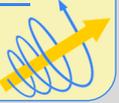
社会が急速に変化する中で、求められる資質・能力とは？



自ら課題を発見し解決する力、多様な他者と協働して解決する力などが求められます。



そこで・・・問題解決的な学習が発展的に繰り返される探究的な活動が重要視されるようになりました。



「探究」が新学習指導要領のキーワードに！

「総合的な学習の時間」の取組の成果を活かしつつ、より探究的な活動を重視する視点から、名称が「総合的な探究の時間」に変更されました。



「探究」と付された科目も新設されました。
「古典探究」「地理探究」
「日本史探究」「世界史探究」
「理数探究基礎」「理数探究」



教科・科目等の枠を超えた横断的・総合的な学習を行う「総合的な探究の時間」は、教育課程の中核となることが期待されています。



「総合的な探究の時間」のデザイン

学校の教育目標は？
育てたい生徒像は？



これらを明確にし、教職員で共有することからデザインを始めます！

その上で、自校の「総合的な探究の時間」の目標を決定します！



本校では、「〇〇〇」を特色とした、〇〇力などの資質・能力を育成するための活動をしましょう！

決定した目標を基に、内容を設定します。

- ① 現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題
例 国際理解、情報、環境、福祉、健康、SDGs など
- ② 地域や学校の特色に応じた課題
例 地域再生、伝統文化、防災 など
- ③ 生徒の興味・関心に基づく課題
- ④ 職業や自己の進路に関する課題



難易度を段階的に設定します。

《年間予定の例》



易

1年 探究のための基礎固め

探究のプロセスを学ぶ
表現力、コミュニケーション力の育成
プレゼンテーションソフト、
表計算ソフトの使い方を学ぶ など

探究の練習

短時間でできる探究を複数回体験



難

2年 探究スタート

各教科や特別活動等で身に付けた資質・能力が、「総合的な探究の時間」で活用・発揮されるように、各教育活動とのつながりも考えてデザインします。



さらに・・・

各教科等において、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることも重要です。



学校の教育目標

育てたい生徒像



各教育活動を内容と資質・能力でつなぐ



探究の4つのプロセス

教師も生徒もこれらのプロセスを理解して活動を進めることが大切です。



探究のプロセスを
発展的に繰り返す!

STEP1 課題の設定



実生活や実社会と自己との関わりから「問い」を見だし、探究課題を設定する。設定した探究課題は、チェックして次のSTEPへ。

《 設定した探究課題のチェック項目 》

- ・調べれば(考えれば)すぐに分かる内容になっていないか。
- ・問題が大きすぎて実行できない内容になっていないか。
- ・絞り込みが足りない内容になっていないか。

最も時間をかけて進めるSTEPです。

STEP2 情報の収集

探究課題を基に、調べる内容を明確にして情報を収集する。

《 情報の収集方法 》

- ・実験、観察、現地調査
- ・インタビュー
- ・アンケート
- ・文献調査 (論文、雑誌、新聞、統計資料など)
- ・Webサイト



STEP4 まとめ・表現

探究課題から結論までを分かりやすくまとめ発表する。最後に振り返り、自らの考えや課題を更新し、新たな探究へと進む。

《 まとめ・表現の方法 》

- ・論文やレポート
- ・プレゼンテーションソフトやポスターによる発表



見栄えよりも、まずは、内容を重視しましょう!

STEP3 整理・分析

探究課題を解決するために、根拠や理由となる情報を整理・分析する。

《 整理・分析方法 》

- ・表やグラフ
- ・統計的な手法
- ・思考ツール (比較、分類、結合、関連付け)



ここで、自分の意見や考えもまとめます。



指導のポイント

- ・教師は生徒の伴走者でよい。
- ・分からないことは、生徒と共に考える姿勢でよい。
- ・教師が問いかけと傾聴を繰り返し、生徒のよさや可能性を引き出す指導を心がけることが大切。
- ・成果のみを求めるのではなく、探究のプロセスを重視する。



組織体制について

- ・主担当者と各学年の担当者が連携して進めることが大切。
定期的にミーティングを行い情報を共有する。
毎年、計画の見直しを行う。
- ・各学年の取組をWeb発信するなどして、教職員、生徒、保護者、地域の人々で情報を共有する。



教職員のベクトルを合わせるためには、校内研修が有効!

校内研修の実施例

- 研修1 「総合的な探究の時間」の目標設定
- 研修2 探究課題の設定
- 研修3 探究のプロセスを体験



研修に関する詳細はセンターWebサイト

「教材研究のひろば」をご覧ください!

(<http://www.tochigi-edu.ed.jp/hiroba/>)

研究調査部では、「校内研修サポート」を行っております。校内研修を検討されている学校は、お問い合わせ下さい。

(栃木県総合教育センター研究調査部 TEL 028-665-7204)





石橋高校 ～ 教科と連携した探究活動 ～

《 特色 》 石橋高校の「総合的な探究の時間」は、将来を見通し、自己の在り方・生き方を考える進路学習が軸になっています。テーマ研究では、テーマの大枠を各教科が設定し、夏休み中のフィールドワークなど体験的な要素も取り入れながら、主体的に学び、課題を解決する資質・能力の育成を目指しています。

年間予定

- 1年** 5月 講座「探究とは何か？」
7月 講座「思考の整理方法」
思考ツールの使い方について
9月 講座「対話力について」
対話の実践、コンセンサスゲーム
10月 講座「課題に気付く」
1月 テーマ研究ガイダンス
テーマ研究講演会(オープニング)
テーマ設定
- 2年** 5月 テーマ研究講演会(研究手法について)
探究活動開始
7～8月 体験活動
9月 テーマ研究実践(情報収集、整理・分析)
11月 中間発表
1～2月 論文作成、発表会
3月 代表作品発表会

詳細版はこちらへ→



point1 探究活動を進める上で必要な基礎講座を、学校独自のワークシートを使用して実施する。



point2 各教科から研究テーマの大枠を複数出してもらい、生徒に提示する。生徒は、それらを参考にしながら、自らの興味・関心や将来の進路を踏まえ、最終的なテーマを設定する。

point3 夏休みを活用して様々な体験活動に参加し、フィールドワーク、実験、取材、アンケートを行うなどして情報の収集を行う。



point4 ポスターやプレゼンテーションソフトによる発表会を実施。1年生も参加し、各研究の評価を行うなどして自らの研究の参考にする。



栃木高校 ～ 1人1テーマの探究活動 ～

《 特色 》 栃木高校の課題研究は、生徒の主体性を重視し、1人1人が1つのテーマを設定して進めています。生徒が設定するテーマの領域は多岐にわたり、自然科学領域だけでなく社会科学・人文科学的な領域も含まれます。このような課題研究を通して、科学的手法を身に付けたリーダーとして国際社会で活躍できる人材の育成を目指しています。

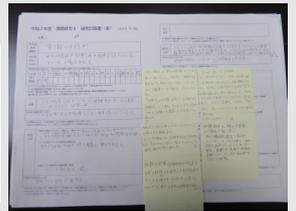
年間予定

- 1年** 4月 課題発見講座
4～6月 研究計画作成①
6月～ 論文書き方講座
調査探究講座
7～8月 研究活動(夏休み)
9～12月 ゼミ活動
1月 レポート作成
- 2年** 4月 研究計画作成②
5～10月 論文作成演習
研究活動(夏休み)
11月 表現講座(ポスター、口頭発表)
12月～ クラス内プレゼンテーション
2月 生徒研究成果発表会
- 3年** 4月 研究の振り返り
5～6月 1、2年生の研究テーマ設定に対する助言

詳細版はこちらへ→



point1 自分の興味・関心領域から1人1テーマを設定し、課題研究の練習をスタート。先輩や教員の付箋による助言により研究内容をブラッシュアップ。



point2 1年次に研究の進め方やゼミ活動の方法を学び、2年次の活動につなげる。



point3 1年次の経験を活かして、課題研究の本番スタート。生徒同士でルーブリックを活用した議論を行い、各自の研究内容をブラッシュアップ。



point4 成果発表会では、2年生全員が発表。他校の生徒や近隣の小学生にも参加を呼びかけ、課題研究を通じた交流活動を実施。

(令和元年は県外高校1校、県内高校3校、小学校1校が参加)



学悠館高校(定時制) ～ 将来を展望する探究活動 ～

《 特色 》 学悠館高校の探究活動では、「自分はどういう人間なのか」「自分は何ができるのか、何をしたいのか」「自分は将来どのように社会と関わっていくのか」…このような問いに向き合い、様々な学びを通して視野を広げ、自分自身を深く見つめます。そして、自己の個性を理解し、将来の展望につなげます。

年間予定

- 1年** 自分を知る、多様な生き方を知る
- 4月 「じぶん未来学」
「適学・適職診断」
 - 5月 進路探究オリエンテーション
 - 6月 進路探究開始「働くことについて考える」
 - 8月 アンケート調査
インタビューの実施
校内生活体験発表会
- 2年** 自分の将来を具体的に描く
- 4月 「じぶん未来学」
トチギストになろう 
 - 6月 進路探究開始
「社会問題・課題について考える」
 - 8月 校内生活体験発表会
 - 2月 進路探究まとめ
- 3、4年** 自分の進路を実現する
- 詳細版はこちらへ 

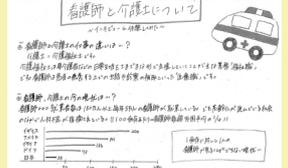
point1 自分を見つめる時間から、自己理解の大切さと、これからの出会いや経験が自分の成長につながることに気付く。



point2 マインドマップを使った課題設定など、学校独自の教材を使って探究の方法を学び、その後の活動に活かす。



point3 探究の成果をA4用紙にまとめ、教室に掲示し、それらを相互に見て、質問や意見を出し合い、ブラッシュアップする。



point4 高校時代を通して得た自身の成長が発表テーマ。自分の課題、卒業後の生き方などに向き合う。




佐野高校 ～ グローバル教育を軸とした探究活動 ～

《 特色 》 佐野高校の探究活動では、郷土の偉人「田中正造」の生き方をモデルとして、「持続可能な社会」の実現を目指し、6つの研究領域から地域の課題を発見・設定します。「シンカ」(深化・進化・真価・Thinker)を探究のキーワードとして、継続的な活動を重ねながら解決策を提言し、行動できる「グローバルリーダー」の育成を目指しています。

年間予定

- 1年** グローバル基礎 ～地域課題研究～
- 4月 オープニングセレモニー
 - 5月 地域リーダーズシンポジウム
日本語、英語ディベート(～2月)
 - 6月 研究領域ごとにグループを構成
 - 7月 仮説を立て、研究計画書を作成
 - 8月 フィールドワークの日
 - 10月～ 中間発表会 → 領域別発表会
 - 12月 成果発表会
- 2年** グローバル応用 ～異文化研究～
- 4月 研究グループとテーマの設定
 - 7月～ 中間発表会 → 領域別発表会
 - 12月 成果発表会
- 3年** グローバル発展 ～キャリアパス探究～
- 4月 2年間の取組の整理
 - 5月 「学びの計画書」の作成
 - 6月～ 「シンカ宣言」の作成
- 詳細版はこちらへ 

point1 中学校で行った課題研究(シンカゼミ)を土台に、グローバルリーダーを目指すことを意識する。



point2 テーマ設定、情報収集、成果発信等の探究の手法を、多様な活動を通して習得する。




point3 1、2年生の研究成果を発表する。1年生の優れた研究を、海外グローバル研修に行くグループが引き継ぐ。





point4 大学等で引き続き追究したい内容を考察する。最後のまとめには、卒業後の進路、生き方に関して、英語で「宣言文」を作成する。



佐野東高校 ～ キャリア教育を軸とした探究活動 ～

《 特色 》 佐野東高校は、「総合的な探究の時間」を活用した体系的なキャリア教育の推進と、より高みを目指した進路の実現を目標に掲げています。大学と高大連携協定を結び、指導・助言を受けながら、SDGsや地域に関連した探究活動を行い、自らの将来を主体的に設計していく力を養っています。

年間予定

1年	5月	職業ガイダンス
	6月	職業人パネルディスカッション
	9～10月	大学・企業訪問事前研究
	10月	大学・企業訪問
	11月	プレゼンテーションガイダンス
2年	11～12月	大学・企業訪問まとめ
	1～2月	大学・企業訪問発表会
	4月	探究ワークショップ
	5月	SDGs講座
	5～7月	探究テーマ設定、企画書作成
	9～10月	探究活動
	10～11月	レポート作成、中間発表会
	11～1月	レポートまとめ プレゼンテーション資料作成
3年	1～2月	探究活動のプレゼンテーション
	3月	探究活動成果発表会

詳細版はこちらへ→



point1 外部講師を招いて講座を開催し、探究活動を進める上で重要な表現力を身に付け、その後の発表会や2年次の活動につなげる。

point2 外部講師を招いて探究活動に関するワークショップやSDGsに関する講座を開催し、探究活動を進める上で必要となる基本的な知識を身に付ける。



point3 テーマ設定の条件と生徒の興味・関心を踏まえ、探究テーマを設定する。



point4 テーマ設定から発表まで生徒同士の相互評価を取り入れる。探究活動のプレゼンテーションでは、ルーブリックで生徒同士が相互評価を行い、クラスの代表作品を選出する。



茂木高校 ～地域と連携した探究活動「ゆずも学」～

《 特色 》 茂木高校は、総合学科の特徴を活かして、1年次の「産業社会と人間」（2単位）と2年次以降の「総合的な探究の時間」（2年1単位・3年2単位）を「ゆずも学」としてつなげ、地域と連携しながら3年間を見通したキャリア教育の充実と、将来リーダーとなって活躍する人材の育成を目指しています。

年間予定

1年	「ゆずも学」・課題研究Ⅰ	
	4月～	探究の「型」を学ぶ(クラス)
	7月	茂高祭で発表
	10月～	茂木町内の施設で フィールドワーク(グループ)
2年	1月	学年全体で発表会
	「ゆずも学」・課題研究Ⅱ	
	4～7月	課題設定(個人)
	9月	中間発表
	10月	修学旅行での情報収集
3年	10～11月	まとめ→発表準備
	12月	発表会リハーサル 課題研究発表会(ポスターセッション等)

詳細版はこちらへ→



point1 課題の発見や整理方法など、探究を進める上で大切な「型」を1年次に身に付ける。

point2 地域に出て多くの人との出会いや協働を通して、地域の課題を知り、解決策を考える。

《 主なフィールドワーク先 》
美土里農園、いい里さかがわ館
美土里館、道の駅もてぎ



point3 地域の課題と向き合う1年次の活動を活かして、自らの希望する職業の課題を知り、解決策を考え発表する。

《 主な研究テーマ 》
・「魚の生態と将来の漁業」
・「田園回帰を建築物によって促進できるのか」
・「コミュニケーションは社会に
どう役立っているか」



point4 修学旅行先で、インタビューを行うなどして情報を収集し、自らの地域の現状と比較する。





馬頭高校 ～「那珂川学」を通じた地域連携型探究～

《特色》馬頭高校では、役場や町内の企業等、地域の多くの方々との交流を深めながら、様々な体験活動や探究学習である「那珂川学」を実施しています。この学習を通して、学校だけでは身に付かない異世代とのコミュニケーション能力や実践力を身に付け、卒業後も地域に参画する人材の育成を目指しています。

年間予定

- 1年** 4月 「那珂川学」オリエンテーション
5～10月 「那珂川学」体験学習
講座 調査のしかた
講座 取材のしかた
11月～2月 ちょこっとプロジェクト
- 2年** 4月 課題設定(8つの分野から選択)
5月 情報収集
文献調査・町内各地での聞き取り調査
インターネット(RESAS等を活用)
6月 情報整理分析
7～11月 マイプロジェクト
※マイプロジェクト:実践型探究学習プログラム
12月 「那珂川学」校内発表会
兼 マイプロジェクト予選会
- 1・2年** 2月 ながわ学発表会

詳細版はこちらへ→



point1 那珂川町全体で「那珂川学」の活動をバックアップ。



point2 1年次に、課題研究を進める上で大切な、調査や情報収集の手法を学び、今後の活動につなげる。



point3 探究の4つのプロセスを短期間で回し、探究活動そのもののイメージをつかみ、個人的な関心を社会的関心へと広げる。→最終的には地域への関心につなげる。

point4 那珂川町主催の発表会で、代表者が町民等に向けて発表する。この体験は生徒の大きな自信となっている。

町民の皆さんから多くの声をいただき、「那珂川学」の改善につなげている。



黒磯南高校 ～授業とリンクさせた探究活動～

《特色》黒磯南高校は、総合学科の多様な選択科目を活かし、授業の内容から探究テーマを設定し深めていく活動を進めています。探究に必要なスキルを学び活用する活動を繰り返し行い、生徒が自分の将来への見通しを持ちながら、何事にも前向きに取り組み、課題を設定し解決する力を育成しています。

年間予定

- 1年** 4月～ My Future Road
自らの将来を見据える活動
1月～ 黒南TanQ project スタート
ガイダンス
ワークショップ
- 2年** 4月～ I期 Start Up
調べる科目と内容を決定
中間発表①
調べた内容をさらに深める
中間発表②
9月～ II期 Quest
探究テーマの設定
インターネット等による情報収集
中間発表③
ワークシートによるまとめ・分析
- 3年** 4月～ III期 Action
最終発表会

詳細版はこちらへ→



point1 「産業社会と人間」での様々な活動を通して、生徒が自分の将来を見通し、その後の探究活動につなげる。



point2 テーマ設定に向けて調べ学習を繰り返しながら、探究に必要なスキルを身に付ける。



point3 探究テーマの設定は、ゴールを見通す(仮説を立てる)こととセットで取り組む。

point4 探究してきたことをポスターにまとめ、発表するなど、「見えるカタチ」にして、生徒に達成感を持たせる。



総合的な探究の時間 FAQ

Q 調べ学習で終わらないために、どのように指導したらよいでしょうか？

A p.3に示したSTEP1の課題設定のときに、生徒が設定した課題を教師や生徒同士でチェックするとよいでしょう(p.3「設定した探究課題のチェック項目」を参照)。特に「調べればすぐに分かるような内容になっていないか」という項目が重要です。また、STEP2、3で、これ以上深めることができない課題だと気付くことも想定されます。その場合は、調べた内容に対して、疑問点を整理して課題を設定し直すともよいでしょう。

Q 探究課題がなかなか決まらない生徒がいます。どのように指導したらよいでしょうか？

A そのような生徒には、面談が効果的です。面談では、教師が問いかけと傾聴を繰り返しながら、生徒の興味・関心や、ニュースなどを見て印象に残ったこと、それらに対する「問い」を生徒から引き出します。それでも決まらない生徒には、教師が大まかなテーマを示し、そこから課題設定を始める方法なども考えられます。

Q 探究活動に対して先生方の協力を得るためには、どうすればよいでしょうか？

A なぜ探究をやるのか、探究活動によってどのような資質・能力を育成するのかなどについて、職員全員で共有することが大切です。そのためには、担当者が中心となり職員会議などで説明会を開いたり、p.3に示すような校内研修を行ったりすることが有効です。

Q 3年間の計画をどのように立てたらよいでしょうか？

A 探究を進める上で最も重要なのは、3年間の探究活動を通して、学校としてどのような資質・能力を育成したいかということです。その上で、どのような探究課題を設定するのか、どのような活動や体験をさせるのかを決めます。また、探究の4つのプロセスを意識して計画することも大切です。

Q 評価はどのように行えばよいでしょうか？

A 探究活動の評価は、最終的な結果だけでなく、その過程も評価することが重要です。そのために、評価規準を基に作ったルーブリック評価表や、生徒の振り返りなどを蓄積したポートフォリオを活用し、探究の各STEPごとに評価することなどが考えられます。

Q 地域や大学等との連携はどのように進めたらよいでしょうか？

A 地域や大学等と連携する上では、信頼関係を構築することが重要です。そのためには、学校の教育目標や、育成を目指す資質・能力を、地域や大学等と共有する必要があります。最近では、全国はもちろんのこと栃木県内でも、地域や大学等と連携した好事例が見られます。そのような、先進校の取組を参考にすることも考えられます。

本リーフレットは、栃木県総合教育センターWebサイトで閲覧及びダウンロードできます。

【問合せ先】 栃木県総合教育センター 研究調査部

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070 TEL 028(665)7204

